さっさと始めよう
空には満月
私と狼の時間がやってきた
死にたいなんて思わない

死神が大鎌を振るい振るい
刈り取る間
私は楽しく踊り明かす

だけど、奴は私は捕まえられない

【すべては成されるべきもの/All in Good Time】

このお話のあらすじ
牡のスペアボディであるカリオストロは卑猥なる衣装を自らの意志で身に纏い、隠された性の欲望を解放する存在と化していた。人望の無い変態な団長を誘惑し、カリオストロは『お願い』と称して玩具による射精管理、性感帯開発を施し、団長をカリオストロ専用の肉奴隷に変貌させていく。肉奴隷の尻穴にペニスを入れ喘ぐ魔媚な彼女の腰使いに負けて、肉奴隷と化した娼年は陰茎を脈動させトコロテン射精する。それに呼応するが如く、とろふわアナルに包まれた竿が苛烈な変貌を遂げ、牡肉からは白きエキスを間欠泉のように滴らせ種付けをするのであった。

錬金術師の思考は気まぐれである。彼であり、彼女である『アレ』の姿はダイヤモンドのように高貴で、姿を見る人々は見とれるのであった。
「ほぼすべてのものが違法で手に入ってしまうから、手に入らないものに価値が生まれるんだよなぁ～？」
気まぐれにもカリオストロは暇つぶしを求めていた。例えば存在する本質なる苦い真理を求めていようとも、退屈しのぎに何かをしなければいけないのだ。暇つぶしとは性欲の解消である。
別にそんなこと、自慰行為でどうにかなるのでは？と思う読者諸君、そこは錬金術師の長年の性、悩みであろうか、他人を堕としてその他人を性欲解消の相手にした方が、錬金術師カリオストロの濃密なる脳の深い性欲に刻まれて、満足感を得られるのである。つまり、カリオストロは他人のことを考えず、エッチオナホを作る幸せなサイコパスホモエッチマンなのだ。ある意味サイコパスと考えるべき存在であるが、彼ら錬金術師から見たら我々、一般人の心は脆すぎると思われている。
例えば、カリオストロは元の男の身体だった時に男に恋をしてしまい、男の躰のままでは愛し合えなかった、だとか、そんな夢物語なことな理由で同性を愛すなど、そのようなことはないのだ。

人望もなくてブサイクな団長さんに対して、相手にしてくれるのはカリオストロちゃんしかいないだよ☆
はぁ～い、オレ様だぞぉ♥　今日もしっかり性感帯開発オナ禁してるかぁ～～？　はぁはぁ～～ん♥　団長さん偉いっ♥　自分の部屋で全裸になって、誰が入ってきても変態宣告確定だよね♥
変態団長さ～ん♥　そ・れ・で……全裸でしてることが乳首をこすりながら、アナルにぶっといの入れてるなんてね……♥
それなのに射精出来ないんだよねぇ～～かわいそ～～～♥　カリオストロ、そんな団長さん見てると悲しくなっちゃうからお手伝いしてあげよ～～～♥　あ、すっとぼけたけどおこれ射精禁止して開発させたの、カリオストロちゃんがお願いしたんだった♥　でも、でも、普通お願いするよね♥　団長が隠れて、カリオストロの下着の匂いをくんくんしてたら、罰でお仕置きとしてお願いするよね♥　お願いだからしなくてもいいけど、これ以上人望とか色んなの無くしたくないもんね♥　しかも、エッチなお願いだし快く行動するのはよ～～くわかるよ♥　わかっちゃうよ♥
今日は沢山イこうね♥　今までイけなかったんだし今日は射精しまくりでいいよ♥
じゃあ今の恰好キープしながら上下に動いてみよっか♥　んふふ♥　かわいいい♥　このぶっといのでパッコパコするんだよぉ♥　トイレいい時みたいにさぁ～、アナルの開け閉めを繰り返すんだ♥　ディルドチンポを受け入れてやるんだよ♥　奥にある男マンコの弱点を気持ちよくなるように、気持ちよくなるように、床にくっついてるディルドで犯されてるように♥　はぁいはい、当たってきたんだろぉ♥　そ～～んな気まずくて気持ちよくなっちゃう顔してぇ～～♥　我慢、我慢♥
もうちょっとだな♥　もう少しだなぁ♥　ほれほれぇ、チンピクしてるけどどうしたんだぁ？

ぽぴゅるるる！　ぽっぴゅぅぅ！　ふびゅ～～～～ぅ！
あぁ～まぁ～～だ出ちゃってる♥　すごいねぇ♥　トロトロだねぇ♥　アナルの弱点のあ・そ・こにぶち当たったんだね♥　前立腺マンコに当たって『おぅおぅ』泣いちゃっててなっさけな～い♥

おいおいい～～情けない団長さぁんよお、まだイけるよなぁ？　うんうん、そうだよねぇ♥　じゃあぶっといディルド抜いてプラグ誘うね♥　あぁ～～～あ、腰ガクガクじゃん♥　一段とヘコんでいてオナホみたいに穴があいてるとこだなぁ♥　エロいメスアナルになってるよぉ♥

【カリオストロさんがヴァイトくんをオナホで搾り取っちゃうお話】

搾精エッチすることをいつも考えている元男の美少女錬金術師カリオストロさんは、実験として吸血鬼の精液が欲しいという理由を思いつき、シスコンなヴァイトくんをベッドに拘束して精神的ホモセックスならぬ、精神的ホモ搾精をしようとしていたのだ！！

『な、何をするんだ！』

「いやぁね、吸血鬼の精液が欲しいなぁ～～って思ってね☆　キミを縛り付けたの☆　エッチなことするから気持よくなるしウィンウィンだと思うよぉ☆　うんうん、あ、カリオストロって言いま～す♥」

『なんだぁ、こうやって拘束させられる身にもなってほしい！』

「いやいやぁ～、本当は構ってもらえて嬉しがってるんじゃないのぉ？　あ、逆らってみろよぉ、このオレ様、吸血鬼如きひねりつぶせるんだからな。わかるよな？　水銀を耳に流しこまれたいのかな？」

『ひぃ、わ、わかった。言うことは聞こう……。でも、いやらしいことなのだよな？』

「そう、それでいいの☆　うん、そうだよ☆　カリオストロといやらしいことするの、顔近づけるだけで真っ赤になってかわいい吸血鬼だねぇ～☆　あ、ワクワクしてる？」

『誇り高き吸血鬼の一族なのに……なぜ……うぅ……悔しい、情けない♥』

「うじうじしないで、脱ぎ脱ぎしましょうねぇ～☆　カリオストロ自慢のチンポに見・せ・て☆」

『くぅッ……うぅ、うくぅ』

「んふ、パンツかわいい♥　んん～～～～これがぁ～～誇り高き吸血鬼さまのチンポぉ？　あっははは、傑作だぜぇ……こんなの姉にも見せられないよなぁ？　いやいや、ヴァイトくんって言ったけ？　これは流石に皮被りのショタチンとはなぁ？　しかも毛も生えてないんだ～～☆　ムキムキしないと中のも見えない、なっさけないチンチンくん♥」

『うぅぅ……うるさい！　別に見せるものではないだろぉ！』

「でも、本当は見せたいんでしょ？　後、この粗チンを毎日しごいてたんだね☆　誰をオカズにしてたんだろうなぁ？　吸血鬼ってエッチな本とかないからなぁ～～☆　多分妄想だしそのおかず相手は誰なのかなぁ～～☆　ヴァイトきゅんのお姉ちゃんだよねぇ～？」

『や、やめてくれぇ……そ、そんなこと、ボクがするわけないだろう！　第一、オナニーなど誇り高きヴァンパイアがするわけ！』

「あ、図星？　図星ぃ？　あはっ☆　言い訳してもいいけどぉ、いやらしいことに興味持ってるのはわかるんだよ☆　もしかして、ショタチンコンプレックスぅ？　誰かに見せたこととかなかったぁ？　今日からねぇ～、カリオストロをお姉ちゃんって思ってもいいんだよ♥　こんなショタチンでも喜んで犯しちゃうから☆」

「さ、そろそろ[redacted]チンチンを～……これで犯してあげる☆」

『な、なんだそれは？』

「卵って言いたいところだけどぉ～～卵の形をしたぁオナニーホールだよぉ☆」

『オナニーホール……なんかぷにぷにしてる……♥　こんなので僕のあれが……』

「あはっ☆　興味持っちゃったぁ？　大丈夫、怖くない♥　これね、下のところに穴が開いててそこにチンチンをくぱぁって入れて食べちゃうんだぞ～☆　カリオストロ、これでキミの精液をいっぱい搾っちゃいたいの♥　興味持ってムクムクしちゃってるねぇ☆」

『くっ……お前ぇ……』

「お前じゃなくて、カリオストロお姉ちゃんっ♥　皮をムキムキしようね♥　あ、あ～～ぁ♥　中の精一杯勃起してるの綺麗だぁ♥　ちゃ～～んと剥いて洗ってるのに」

『剥かないでぇ……ひぃ～～♥』

「はい、オナホのお口にあ～～ん♥　耳元でささやかれながら、チンチンからオナホ搾精しようね～☆」

『あ、あ、はぁん♥　んっひ♥　ひぃ♥』

「ローション冷たい？　んふふ、卑猥な音するよね☆　くちゅ～～～くちゅ～～って擦り合わさって伸びたり縮んだりする音ね♥　これ、チンチンとローションがエッチし始めた音だよぉ～～♥　エッチの開始の合図♥　合図♥　もっちりとしたプツプツを味

わおうねぇ♥」
んうぅ、あいぃ……はぁん……あ、あ、あ♥　これがオナホぉっ♥
「そう、これがオナホぉ～～♥　腰を後ろにしないっ！　前のめりにするのぉ！　そ～そ～前のめりにして精一杯奥に押し込むの☆　え～い、え～いって☆」
『おぉッ！　やるからぁ！　がんばってオナホやるからぁ～～♥』
「うぅん、腰をもっと上げ下げしないとね☆　お姉ちゃんやカリオストロのオマンコの中にパンパンっ！パンパンって腰へこしてるみたいにね♥　うぅ～んっ、ヴァイトきゅんのオナ顔いいよお～～☆　カリオストロも興奮しちゃう☆」
『おぅぅぐぅ～、あッ、あ、あ、あァ～～♥　ぎもひいいっ♥　しゅっごぉ♥　お姉さんのオナホ、ぎもひいいっ♥』
「先っちょをぐちゅぐちゅ～～ってするとよがっちゃう♥　えへへ～ここ弱点なんだぁ☆　先を指でつつかれるとオナホ越しでひぎぃ！ってなっちゃうねぇ♥　はぁん……オレ様ぁ、苛めたくなっちゃったよ、いっぱいオナホ皮を伸ばして敏感な先端を犯してやるからなぁ～～♥」
『おっひ♥　おっひっ♥　んふぅ～～♥　イジメないでっ♥　あ、やだ、やめないで♥　お姉ひゃん、もっとしてぇ～～♥』
「お～～～い♥　こんなアホ顔晒しちゃってぇ♥　ダメな吸血鬼ぃ～～☆　えへへ、耳ぐらい舐めてあげるねぇ～♥　んじゅるるうっ♥　ふっじゅりゅ～りゅりゅっ♥　ちゅっはぷ♥　じちゅぅ～～☆　んっふふぅ、吸血してるみたいだねぇ♥　これじゃ逆だよねぇ♥　チンチンからエッチお汁を搾り取っちゃうの♥　んぅ～、腰ちゃんと動かさないとだ～め♥　ほらッ、いっぱい手でオナホ動かしてやるから、パコるのぉ！」
『ダメな弟でごめんなひゃっい♥　あぁ～～おぅ～っおぅ～ッ♥　ひっふ♥　んふーんふーんふー♥』
「あ、イきたくなっちゃった？　チンチンから射精してダメになりたいんだ☆　足をピーンって準備完了なんだぁ♥」
『お……マンコ♥　お姉ちゃんッ！　むっむり♥　我慢できない♥』
「イけ！　カリオストロお姉ちゃんの偽マンコでイっちゃえ☆　イっちまえっ♥　ダメになっちゃえっ♥　それそれ！　それぇ～～！　ぢゅぼぎゅぽって根本から馬鹿になっちゃえ」
『はっひ、はひ♥　お姉ちゃん出ちゃうっ♥　出ちゃっ、う♥　あぁ～～～～ぅぅ～～～んんッ、んぅっ♥』
ぷぴゅ～～～どぶびゅっ、くっぴゅぶっ、ぷびゅっ！　ぐっびゅ、くびゅ、くぴぅゅッ！
「イっちゃったねぇ～☆　はぁ……すごい音だったよぉ☆　射精音わかったよね？　ぶぴゅ～って♥　金タマからいっぱい作られたヴァンパイア汁すっご～い♥　ヴァイトきゅん、よく、オナホでイけましたぁ♥　ピクピクしてるっ♥　えへへっ」
『あ、あ～……お姉ちゃん……』
「はぁ～～いカリオストロお姉ちゃんですよぉ、弟くん……射精だけは一丁前にいっぱいしちゃってぇ～☆　ねぇ……オナホが白くて分からないと思うけど……この中、精液でぐちょぐっちょなんだよ☆　この精液って本当はね、カリオストロお姉ちゃんのマンコの中に入る予定の赤ちゃん汁だったんだよ？」

【小さなバブみのメロディ】

赤ちゃん戻り……バブみ、そこまで枯渇していたとはぁ……団長、これは心配だなぁ♥　オレ様が解決するぞっ♥　なんて言うと思ったかぁ？　ん……んぅん？　まぁ遊んでやるよぉ♥　このカリオストロに任せればいいからな♥　ママ、ママって、そんな言葉いっぱい、いっぱい……言ってくれていいからねっ団長さん♥　煽りなんかじゃないから……うんうん、♥　じゃあ、はぁい、♥　ママにぎゅ～ってしてごらん♥　はい、ぎゅ～♥　かわいい赤ちゃんできるかなぁ～♥
あ、あぁ～出来た出来た♥　かわいいでちゅよぉ～～♥　よぉ～～しよし♥　甘えん坊さん、なでなで♥　ぎゅってお手々で身体つかんじゃって～♥　お顔真っ赤だよぉ♥　もう、ボクの唇をじーっと見てぇ、どうしたのぉ？　キ・ス、したいのぉ？　カリオストロママのあま～～い優しい匂いに誘われてキスしたくなったんだよぉねぇ～♥　キスもママに任せてね～♥　舌で口内にしっかりママの味を練り込んであげるよぉ♥　んちゅ～～～♥　はふぅん♥　赤ひゃん、ひたでねぇ～～こうやって絡み合うのしゅきなんらぁ♥　好きなんだよねぇ、こういうママとエッチお遊戯するのが♥
かっこわる～～くなっちゃおうね♥　かわいい赤ちゃん♥　んじゅずずッ♥　ぎゅってしながらのキス好きなんだぁ♥　僕のキスで脳みそダメになろうねぇ♥　へえ～～裸ん坊でママに抱きしめられてキスして、アソコおっきくしてるんだぁ♥　ボクにチンチンおっきしてることん、ドキドキしてるんだ♥

刺激されてプルプルお顔真っ赤にするエッチな男の子……♥

はぁ～～おっきな赤ちゃん♥　ちゃ～～んとママに甘えるんだぞ♥　え、ママのおっぱい吸いたくなった♥　もう、オレ様のおっぱい、気になってたんだ♥　いいんだぞぉ♥　だって、ママのおっぱいが飲みたくてたまらない変態さんだからねぇ♥　はい、いいよ～……ママのおっぱい思いっきり吸ってみてね♥　おっぱいチューチューちまちょうね♥　んぅ♥　ママの乳首、エッチでしょう♥　そんなにお腹空いてたの～？　一生懸命ちゅぱちゅぱ吸っちゃって、すっかり甘えん坊さんなんだからぁ♥　ママの乳首にそんなに吸い付いちゃって～……かわいいコだぁ～♥　いっぱい、い～っぱいママのミルク、ゴクゴク飲んでいいでちゅからね～。あ、また大きくなってきてるぅ♥　はぁい、オレ様にアレ見せて♥　アレってわかるよねぇ♥　オチンチン♥　そのパンツの中でお勃起してるオチンチンだよぉ♥　わぁ～～ちっちゃぁい♥　ちっちゃいけどこんもりしてるぅ♥　うんうん、かわいい皮かむり……見てほしいって言ってるよ♥

オチンチンの皮ムキムキしようね♥　はぁい、がんばれ、痛くない、痛くないここは剥いておかないとすぐに汚れが溜まっちゃうし臭いんだよぉ♥　にゅるぅ～って皮を根元に向けてゆっくり剥いて、優しく触るねぇ♥　ゆ～っくり……ゆ～っくり剥いてあげるから、安心してぇ♥　は～い、痛くないでちゅよ……ママが優しくむきむきちまちゅから～♥　んぅ……あぁピンク色の亀さんが見えてきまちたね～♪　かわいいよぉ♥　ボクちゃん、もう少しだからがんばろうねっ♥　は～い、赤ちゃんのおっき亀さん全部見せれたよぉ♥　すごく綺麗だねぇ♥　いやぁ～スケベだねぇ～なんてかわいくてエロいんだろうねぇ♥　これからどうしてほしいのかなぁ？　ボクにどうしてほしい？……シゴいてほしんだぁ～～ふぅ～～ん♥　いいよ♥　よ～しよし♥　ふふん♥　きもちいぅ～？　自慢のすべすべお手々だぜぇ～♥　ちんちんシゴく手早くしていくから我慢、我慢♥　おっぱい吸って我慢♥　シコ病みつきになっちゃおうね♥　我慢すれば気持ちよくなるからっ♥　ね？　ね～？　んぅっ♥　はい、がーまん♥　タマタマから上がってくる精子を受け止めてあげるから我慢♥　気持ちいいタイミングで出せばいいんだからね♥　早漏とかそんなことないよ♥　イけ！　イけ！　しっかりイっちゃえ♥　ママのおっぱいハムハムしながら射精するんだぞ♥　弱い赤ちゃんチンチン、手の中で射精して悪い物全部出しちゃえっ♥　オスアクメしちゃえっ♥

どっぴゅっるん！　ぷビュルルる！　ビッリュゥッ！　どっぴゅん、ふぉっぴゅん、いいよぉ♥　ママに任せてねぇ♥　はぁ～～い♥　はうぅっ♥　もっと吸ってイカ臭いのお漏らししてねぇ♥　かわいい赤ちゃん♥　団長ちゃん♥　最後の一滴までお射精できまちたかぁ？

【カリオストロくん、ブームに乗ってコスプレするも、またホモセックスの沼に落ちる】

CJD の侵略によって、某お船のスケベ女装コスプレからグランブルーファンタジーの元男美少女錬金術師カリオストロが女装のブームとなっていた。そう、それこそが我がアイデンティティのようにカリオストロのコスプレをして着飾り、卑猥なる行為を見せつける。

アンビバレントにこの世を生きること、これは僕に対しての罪である。メジャーなことが大好きな一般人が思うように、日本が印度になることもなく、高円寺は日本の印度ではない。そんな非常にアンダーでグラウンド且インモラルなことが普通で常識を信じられないぐらいに病んだ人々を僕は見てきた。消しゴム頭の女が歌を歌って出てくるわけでもない。大空のその先の宇宙の闇からの支配者が私を発狂させようと陥れることもない。卵から人に取り付き、腹を割って出てくるまどろっこしい生物もいない。

ニャルラトホテプ……這い寄る混沌……残ったのはもうわたしだけ……この何もない空を聞き手にして、お話しようと思います。などと混沌について語ることもない。ホモセックスと流行りのコスプレとアナルファック、そう、これだけがウロボロスが表わす無限として尾を噛む。

同性同士でも入れるラブホテルの一室。

「今日はさ、おじさまとかかわい子ぶってよ。僕はコスしないしさ。カリオストロとおっさんって感じで」

リクエストを受ける。昔のような彼の輝きは無かった。昔と言っても数年前、違うジャンルでコスプレをしていた。肉体関係もあった。輝いていた彼の顔を思い出す。

おっさんに愛撫される、キスされる。別に苦痛ではない。その逆である。背徳的なものを僕に与えてくれる。援助交際に似た何か、これが女子高生たちが感じる援助交際愛なのだろうか。

「カリオストロで～す☆」

流行りに乗るコスプレで僕はグランブルーファンタジーのコスプレ……女装をしている。何のために、それはセックスの為だ。十代の頃から染みついた。同性とセックスをするための下準備、慣れ合い行為、これがコスプレであった。別に変身願望とか、女になりたいみたいな溢れ腐った願望に置き換えてもいい。

長い金髪のウィッグ、疲れる。フリフリの衣装、冬だからまだいいが夏は暑い。髪飾りや小物、自作するのは面倒であった、頭に付けるのもだるい。

セックスするときはセックスする為の服装をしている。セックスする相手が似合うと言ってくれるマイクロビキニのようなランジェリーだ。

「ね☆　かわいいよね☆　オレ様、カリオストロ☆」

「ああ、かわいいよ」

媚びる。醜い。あざとい。

ここにいる一人の男に執着しているのだ。自分のしてきたことを見返すほどの心に余裕などなく振り向かず、人を傷つけて、裏切って、ただあの頃輝いていたものに縋りついてお金をもらう。

以前のように、表立って会うことのなく、セックス密会として会うようになった彼と今日僕は会う。

☆サンプルはここまで☆